九州経済

ファクス 092(711)6249　メールkeizai@nishinippon.co.jp

◆ものづくりシンポジウム

一般社団法人「福岡県ものづくり中小企業推進会議」は8月2日午後2～5時、中小企業の海外展開や商品開発について考える「ものづくりシンポジウム2016」を福岡市博多区吉塚本町の博多サンヒルズホテルで開く。参加無料。

シンポでは企業経営者ら3人が講演予定。このうち、本多機工（福岡県嘉麻市）の龍造寺健介社長は外国人人材を活用した海外事業展開について紹介する。同会議＝092（612）5177。

◆中国経済動向セミナー

福岡貿易会は8月3日午後2時半から、福岡市博多区の福岡商工会議所でセミナー「人民元の国際化の動向と越境EC（電子商取引）のこれから」を開く。無料。

中国は内需拡大政策にかじを切っており、人民元の国際化や電子商取引（EC）、新しい決済方法について紹介し、中国市場との付き合い方を解説する。講師はJTBグループ本社の経営企画部・国際間決済事業室長、広瀬一盛氏など。先着40人で7月29日までに申し込む。福岡貿易会＝092(452)0707。

円高、中国関税アップ、熊本地震が影響

九州も曲がり角

百貨店、体験型消費に比重

訪日外国人の消費が曲がり角を迎えている。円高や中国の関税制度変更の影響で、1人当たりの消費額は減少傾向。昨年の流行語になった「爆買い」は落ち着き、価格に敏感になっている。九州では熊本地震で落ち込んだ訪日客がまだ完全には回復しておらず、状況はより厳しい。百貨店や免税店は、サービスや情報発信を強化して需要の取り込みを模索する。（石田剛）

深フカボリ！

「4月から免税品売上高は前年割れが続いている。特に高額品が売れていない」。岩田屋三越（福岡市）営業政策部の一瀬直樹さん(43)は声をひそめる。2016年に入ってから伸びが落ち始め、4月以降は前年比約3割減という。15年は、前年比約8割増で1千万円を超える時計が売れたこともあったが、それとは対照的に高額品の売り上げが落ちた」と九州唯一の空港型免税店「福岡デューティーフリー」の阿部芳久店長(49)は語る。時計でも中価格帯の商品は関税率が低いため「価格と関税率について尋ねる中国人客が増えた」。

一方、依然として堅調なのは化粧品。九州の主要な訪日客である韓国、中国、台湾、香港の女性に人気で、多数中の台湾で「関税引き上げ後、はっきり売り上げが落ちた」と降、来店客が減った影響が大きい」と話す。

◆　◆

観光庁が20日に発表した今年4～6月の訪日客の消費動向調査では、全体の1人当たり消費額は前年同期比9・9％減の15万9930円だった。大きな要因となったのは中国人客。1人当たり22・9％減と国・地域別では最大の減少幅だった。

冷静に受け止める。熊本地震による九州への旅行客減少も徐々に戻るとみて、集客策を進める。

単なる商品購入だけではなく〝体験型〟の買い物を求める傾向は高まっている。化粧品売り場では、肌の手入れやメークの体験が人気だ。「日本のお客さまと同じサービスを求める方が多い」と岩田屋三越の一瀬さん。基本会話を外国語でまとめた「指さしシート」を各売り場に配布し、売り場担当者向けの電話通訳を取り入れている。

訪日客向けのマーケティングを手掛けるマイクロアド・インバウンド・マーケティング（東京）は8月2日から、上海から九州・沖縄を訪れるクルーズ船内で日本の商品を販売する事業を始める。寄港先で買い物時間を短縮したい船客が増

ワイズグローバルビジョン
（沖縄県うるま市）
柳瀬　良奎社長

ひと

小型淡水化装置を開発

大手商社を退職後、2012年に浄水器などの製造・販売会社を設立した。従業員十数人のベンチャー企業で、4月には海水を淡水化する小型装置を開発した。

大手企業も同様の装置を製造しているが、工場向けなど大型機器が少なくない。一方、自社製品はスーツケース大で重さ27キロのため、持ち運びが可能だ。1時間に40トンを淡水化できるという。自社開発した専用容器の特許出願準備も進めている。「営業活動をすると、国内よりも海外での引き合いが多い」。今後はフィリピンやバングラデシュなど、水事情に悩む国々での展開を図る。

16年8月期決算で、設立後初めて売上高が1億円を突破する見込み。「3年以内に株式上場したい」と張り切る。

高齢者ＩＴ介護
タイで実証実験

大分市のソフト開発会社

【バンコク浜田耕治】大分市のソフトウエア開発会社「エイビス」は25日、国際協力機構（JICA）の支援を受け、介護の負担を軽減する「みまもりシステム」の実証実験をタイで始めた。IT技術を活用してベッドでの高齢者の動きを検知し、転倒事故などを防

振動や圧力を検知するパネルセンサーについて説明する関係者＝タイ・サムットサコン県

けと在宅向けの2種類のシステム。施設向けは、ベッドのマット下に敷いたセンサーで、寝ている高齢者の振動や圧力を検知。ベッドから降りようとしていることなどを介護者にアラームで知らせ、転落や転倒事故の防止につなげる。

在宅向けは、扉の開閉や室内で人の動きがあるかどうかを検知し、急激に高齢者の80施設に導入されているが、タイでも有効に機能することを確認するため、タイ中部のバンパエオ病院とタイ赤十字運営の介護施設で1カ月かけて検証する。

タイは2002年に高齢者の割合が7％を超える「高齢化社会」となり、22年には14％を超える「高齢社会」になると予想されている。高齢化のスピードは日本よりも速い。エイビスは「介護が必要な高齢者も急激に増えるため、ビジネスチャンスがある」と判断した。

25日はバンパエオ病院で式典があった。ポンテップ・ポンタウィゴン院長は「日本の先端技術で、患者のリスクとケアの負担を減らしたい」と期待を表明。吉武俊一社長は「実証実験を通じて課題を見つけ、タイ国内向けにシステムをマイナーチェンジしていく。

気流

福岡市に船をイメージした飲食施設「シップスガーデン」が開業した。天神地区と博多地区を結ぶ明治通りの西大橋のたもと。1階は「世界一の朝食」と評価された飲食店が入居。広場から屋上まで一体的につながり、明治通り再開発の起爆剤になると期待されている▼水上公園と呼ばれるこの一角は、西日本鉄道が再開発するまで、ほとんど意識せずに通り過ぎていた。それが施設開業後は、若者からお年寄りまで多くの人が集っている。設計に携わった建築家の松岡恭子氏の狙い通り、那珂川が市民に親しまれる場所になりつつある▼夜に屋上に上がると、中洲のネオン看板が視線に飛び込んでくる。福岡市の夜の風物詩も、今は多くの広告主が撤退、ビル屋上の骨組みの露出が痛々しい。那珂川の夜の川面に映えるネオン看板復活の起爆剤にもなるとうれしい。